

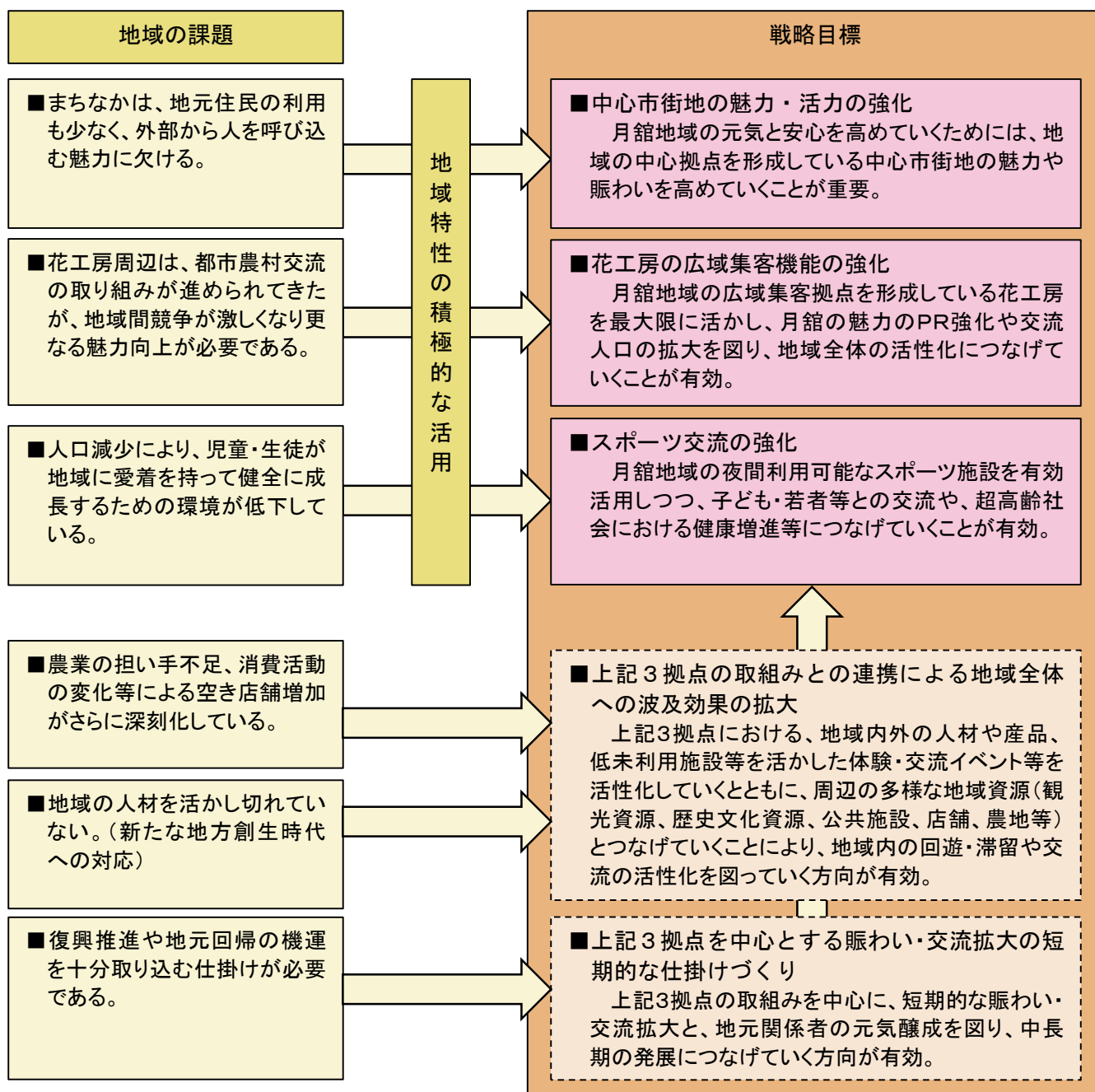
5章. まちづくりの戦略目標

1. 地域全体の活性化に資する戦略目標

月舘地域全体の活性化に向けては、優先的に取り組むべき拠点整備等の重点プロジェクトを抽出し、段階的な整備・実現をめざすことにより、地域全体の主要な課題解決や元気増進につなげていくことが重要である。

また実現に向けては、月舘地域における既存の拠点施設や人口集積等を活かしつつ、実効性に十分留意することが重要である。

このため、地域の特性や課題を踏まえ、以下のように戦略目標を設定する。



2. 重点プロジェクトの基本的な考え方

前述の戦略目標を踏まえつつ、3つの拠点機能を中心とする重点プロジェクトのコンセプトと拠点配置（ゾーニング）を以下のように考える。

基本コンセプト：月舘文化（月舘の魅力）を満喫する、夢を育むトライアングル拠点づくり

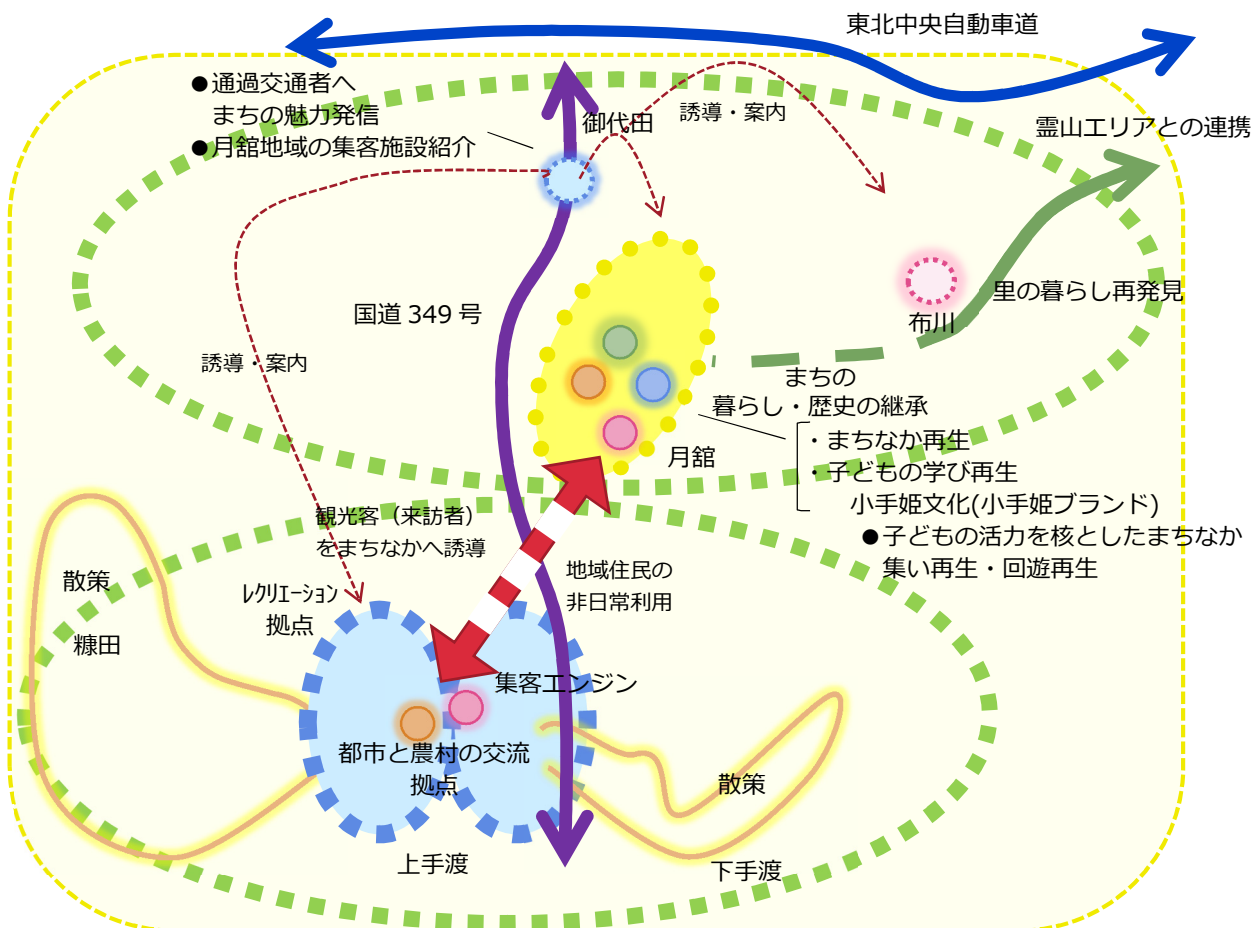
1. まちなかりノベーションを推進することで、地元の子どもや大人も楽しめるスペースを創出し、中心部の賑わいや安心を高める。
2. 花工房等における集客・誘導機能を強化することで集客力を高め、まちなかに人を誘導する。
3. 住み続ける子ども教育との連携を図りつつ、スポーツや健康増進活動の活性化を図ること、健全な人材育成に繋げる。

なお、集客の主なターゲット層は、地域内、地域外からの来訪者を想定して、以下のように考える。

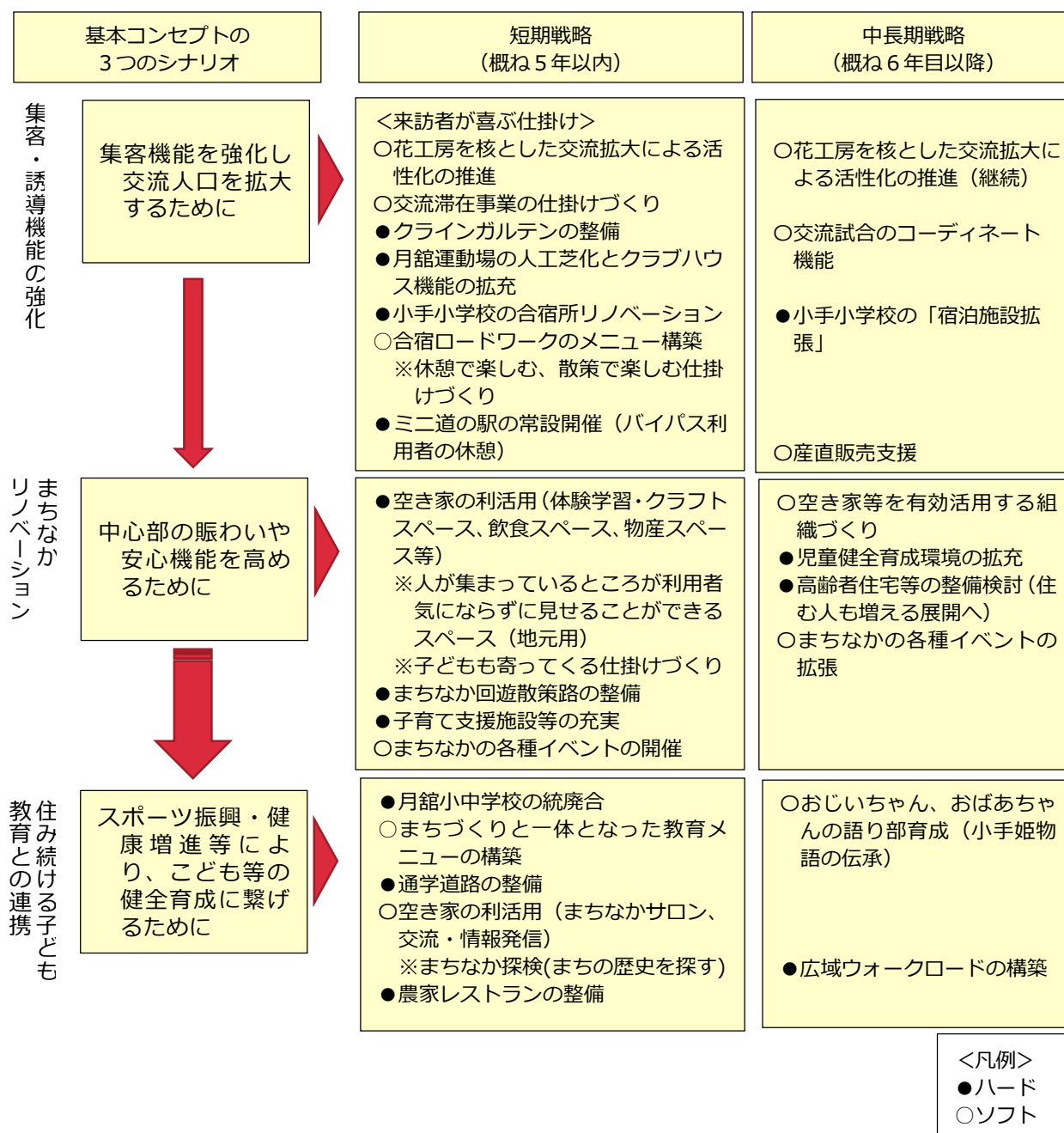
■対象とする主なターゲット層

1. 月舘地域の住民や、地域との交流を求める来訪者
2. 花工房利用者（広域利用含めた里山宿泊体験愛好家など）
3. スポーツ施設利用者（親子連れ、子ども（地域内、地域外）など）

<概念図（拠点配置・ゾーニング図）>

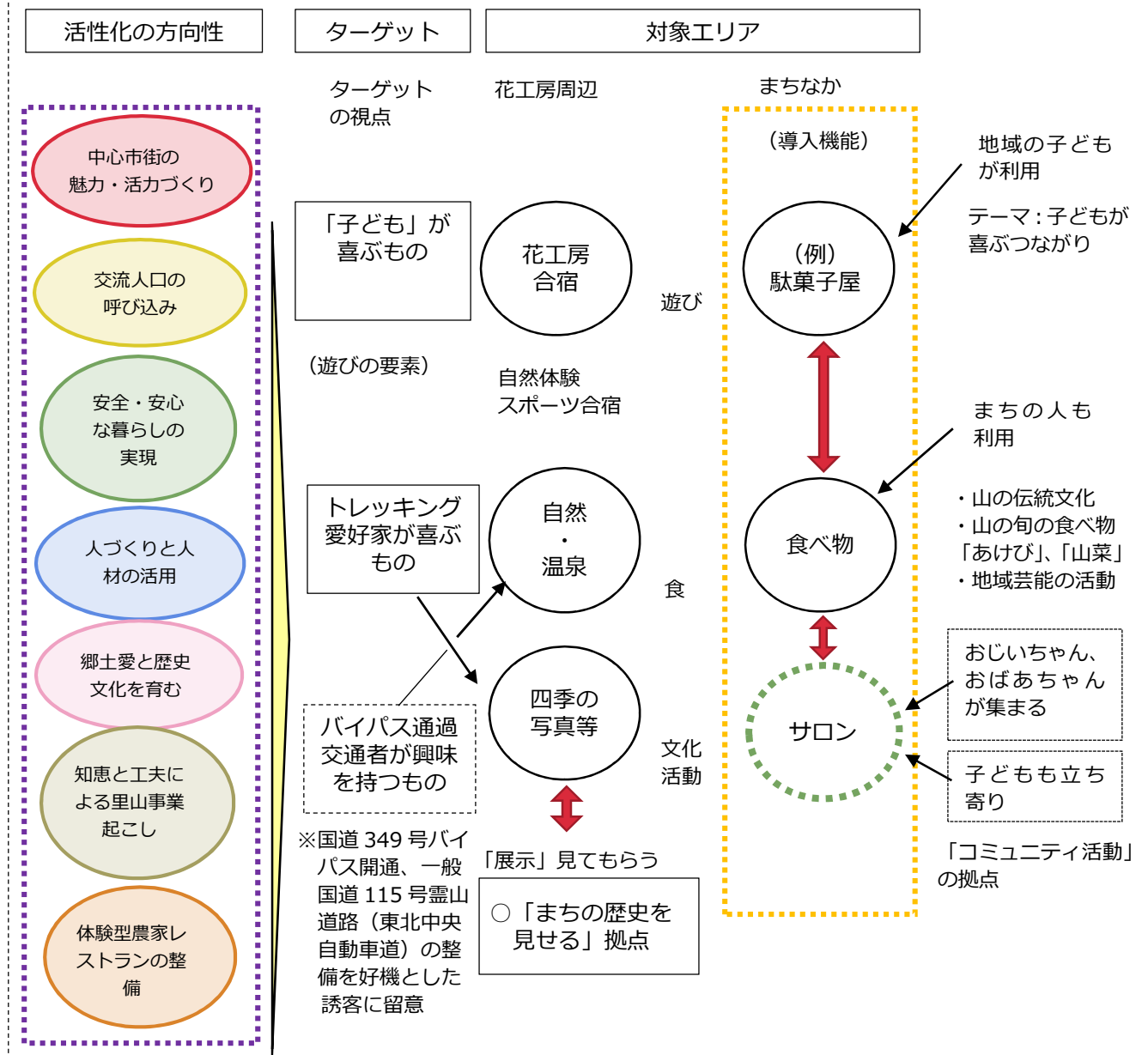


まちづくり戦略は基本コンセプトの3つのシナリオごとに、新市建設計画の計画期間である今後5年間の短期戦略と、それ以降の中長期戦略に大きく区分した段階的な施策展開方向と施策アイデア・メニューを以下に示す。



<参考資料：ターゲット層の行動の想定について>

現状では、花工房周辺には、多くの利用者を集めるものの、まちなかには、人が来ないことから、花工房等周辺の来訪者をまちなかに呼び込むために、地域の資源性を勘案しながら、活性化の方向性と関連するターゲットの趣向性を捉えて、まちなかにあると誘客に繋がる可能性が想定される導入機能について導きだした。



■整備構想図

